

## 小児の視機能の発達と検査

佐藤美保先生（浜松医科大学 眼科）

1986 年 3 月	名古屋大学医学部卒業
1993 年 3 月	名古屋大学医学部大学院外科系眼科学満了
1993 年 9 月-1995 年 3 月	米国 Indiana 大学小児眼科斜視部門留学
2002 年 7 月	浜松医科大学医学部眼科学助教授(准教授)
2011 年 1 月	浜松医科大学医学部眼科学講座 病院教授

小児の視覚は、常に日常生活の中で鮮明な画像を見続けることで発達する。成長の過程で斜視や強い屈折異常、屈折の左右差(不同視)があると両眼の視覚が正常に発達しないことになる。そのため小児眼科診察は、斜視、屈折検査が中心となる。それぞれの年齢に応じた検査を適切な順序で行い、一回の検査ですべてを完了できなくても、次の受診につなぐことができるように行う必要がある。また屈折検査のためには調節麻痺薬の点眼が必要なことが多いためその意義や副作用について配慮する必要がある。

小児眼科診察の介助を行う看護師は、小児特有の検査方法とその意義を理解しておく必要がある。この講演では眼科看護師に必要な年齢ごとあるいは小児の特性に配慮した検査方法を解説する。